

環境 アニュアルレポート 2026



未来へつなぐ、やさしい選択

株式会社NECライベックス

目次

	頁
ごあいさつ	3
1. 会社概要	4
2. 環境マネジメントシステム（現状と取り組み）	5
3. 環境目標および実績	15
4. 環境負荷状況（マテリアルバランス）	17
5. 主な環境負荷低減活動	18
6. 社会貢献活動	24

本レポートは、次の対象範囲、活動期間についてまとめています。

対象範囲：ISO14001認証取得範囲の拠点
※本社を含む7ヵ所の関連事業所(6頁参照)

活動期間：2025年4月1日～2026年3月31日（2025年度）
※対象期間前後の情報も含みます

ごあいさつ

弊社レポートをお読みいただきありがとうございます。今年度も弊社の環境アニュアルレポートを刊行することができ、日頃よりご協力いただいているステークホルダーの皆様に心より御礼申し上げます。

当社は、NECグループの中で唯一「食」に特化した事業会社として、「安全・安心で良質なサービスの提供」をモットーに、さまざまな食関連サービスを展開しています。私たちは「とどけるまごころ、生まれる笑顔」というスローガンのもと、お客様の“より元気に・より便利に・より幸せに”を実現することを目指し、日々事業活動に取り組んでおります。

NECグループでは、「NECエコアクション2030」のもと、気候変動への対応、資源循環の推進を重要な経営課題として位置付け、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速しています。当社においても、この方針に沿って環境マネジメントを推進し、事業活動を通じた持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

2025年度は、環境方針に基づき、「省エネルギーの推進」「資源循環の推進」「環境に配慮した商品・サービスの提供」を重点テーマとして活動を展開しました。特に水資源の保全については、スイミングクラブにおける節水活動や設備改善を継続し、水使用量の削減に取り組みました。限りある水資源を大切に活用し、地域社会とともに持続可能な環境づくりを進めています。

また、循環型社会の実現に向けた取り組みとして、食堂やクラブで発生する廃食油を回収し、バイオディーゼル燃料として再資源化する活動を継続しています。廃食油由来の燃料は、化石燃料の使用抑制や温室効果ガス排出削減に貢献するほか、資源を無駄なく活用する循環型モデルとして高く評価されています。さらに、プラスチック資源循環への取り組みとして、NECグループ拠点で実施している「ボトルtoボトル」リサイクル活動を推進するとともに、マイボトル利用の促進や環境配慮型商品の提供拡大に取り組みました。使用済みPETボトルを新たなPETボトルへ再生する仕組みを通じて、資源循環と廃棄物削減の両立を図っています。

当社は、1997年に業界で初めて、オフィス向け食堂・売店を運営する複合事業体としてISO14001をNEC本社ビルにて取得し、2007年には認証範囲を拡大。現在では本社を含む6ヵ所の関連事業所において環境マネジメントを継続しています。これらの活動は、日々の業務の中で持続可能な社会づくりに寄与するものと確信しています。

今後も、環境配慮と事業の両立を図りながら、社会と調和し、NECライベックスとしての責任ある行動を継続してまいります。皆様には、今後とも当社の環境への取り組みにご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026年 8月
株式会社NECライベックス
代表取締役執行役員社長
新川 量子



1. 会社概要

当社は、NECグループを中心とした福利厚生業務の専門アウトソーシング会社として、専門性の追求と品質・サービスの拡充に努め、お客様に、より満足のいただけるライフソリューションのご提供を心がけています。

◆会社概要

会社名 : 株式会社NECライベックス
本 社 : 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル6階
設 立 : 1970年10月14日
代表者 : 代表取締役執行役員社長 新川 量子
資本金 : 1 億円
従業員数 : 1,424名(2026年3月末現在)
売上高 : 94億円(2026年3月期)
事業内容 : NECグループを中心とした福利厚生、オフィスビジネス等のサービス業
営業拠点 : 147拠点 (2026年4月1日現在)

◆経営方針

1. お客様本位
2. 事業・サービスの継続
3. 新しいことへの挑戦
4. 従業員の誇りと尊厳
5. 自然・社会との調和

サービスモットー

「安全・安心で良質なサービスの提供」

私たちNECライベックスは、
常にお客様を中心に考え事業を行います。

お客様のWell-Beingに繋がる価値を提供し続け、
そのために新しい提案や変革に取り組んで参ります。

お客様にサービスを提供する従業員が元気であり、
自然・社会と調和した、
事業の運営に努力して参ります。

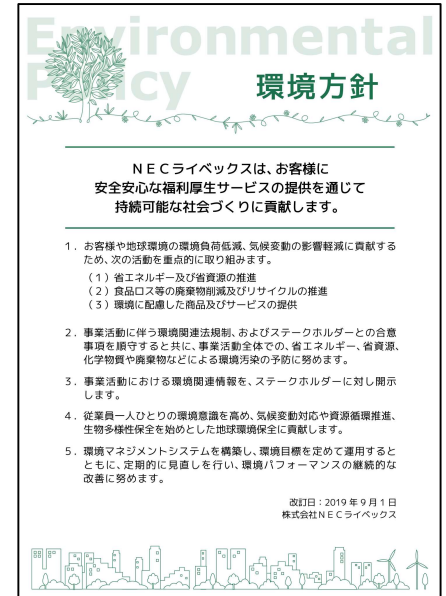
2. 環境マネジメントシステム（現状と取り組み）

当社は、環境方針を制定し、国際規格である ISO14001に準じた環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善を図るため、年間計画に沿った環境活動を推進しています。

（1）環境方針

NECライベックスは、お客様に安全安心な福利厚生サービスの提供を通じて持続可能な社会づくりに貢献します。

1. お客様や地球環境の環境負荷低減、気候変動の影響軽減に貢献するため、次の活動を重点的に取り組みます。
 - （1）省エネルギーおよび省資源の推進
 - （2）食品ロス等の廃棄物削減およびリサイクルの推進
 - （3）環境に配慮した商品およびサービスの提供
2. 事業活動に伴う環境関連法規制、およびステークホルダーとの合意事項を順守すると共に、事業活動全体での、省エネルギー、省資源、化学物質や廃棄物などによる環境汚染の予防に努めます。
3. 事業活動における環境関連情報を、ステークホルダーに対し開示します。
4. 従業員一人ひとりの環境意識を高め、気候変動対応や資源循環推進、生物多様性保全を始めとした地球環境保全に貢献します。
5. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を定めて運用するとともに、定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの継続的な改善に努めます。



環境方針ポスター

制定日：2007年 4月 1日
改訂日：2026年 4月 1日
株式会社NECライベックス
代表取締役執行役員社長
新川 量子

(2) ISO14001認証

当社は、1997年10月、オフィス向け食堂・売店を運営する複合事業体として、業界で初めてISO14001をNEC本社ビルにおいて認証取得しました。

また、2007年12月、取得範囲を拡大し、現在は本社を含む7ヵ所の関連事業所に至っています。

登録事業者：株式会社NECライベックス

登録活動範囲：NECグループを中心とした福利厚生、オフィスビジネス等のサービス業
(売店・食堂・宿泊施設運営、厚生
文体施設運営管理、ヘルス&スポーツ
に関する事業及びその付帯業務)

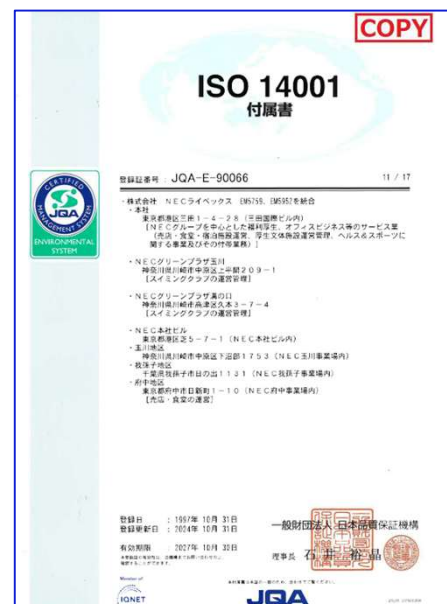
関連事業所：本社、NECグリーンプラザ玉川・溝の口、
NEC本社ビル、玉川地区、府中地区、
我孫子地区

審査機関：一般財団法人 日本品質保証機構(JQA)

登録証番号：JQA-E-90066

登録日：1997年10月31日

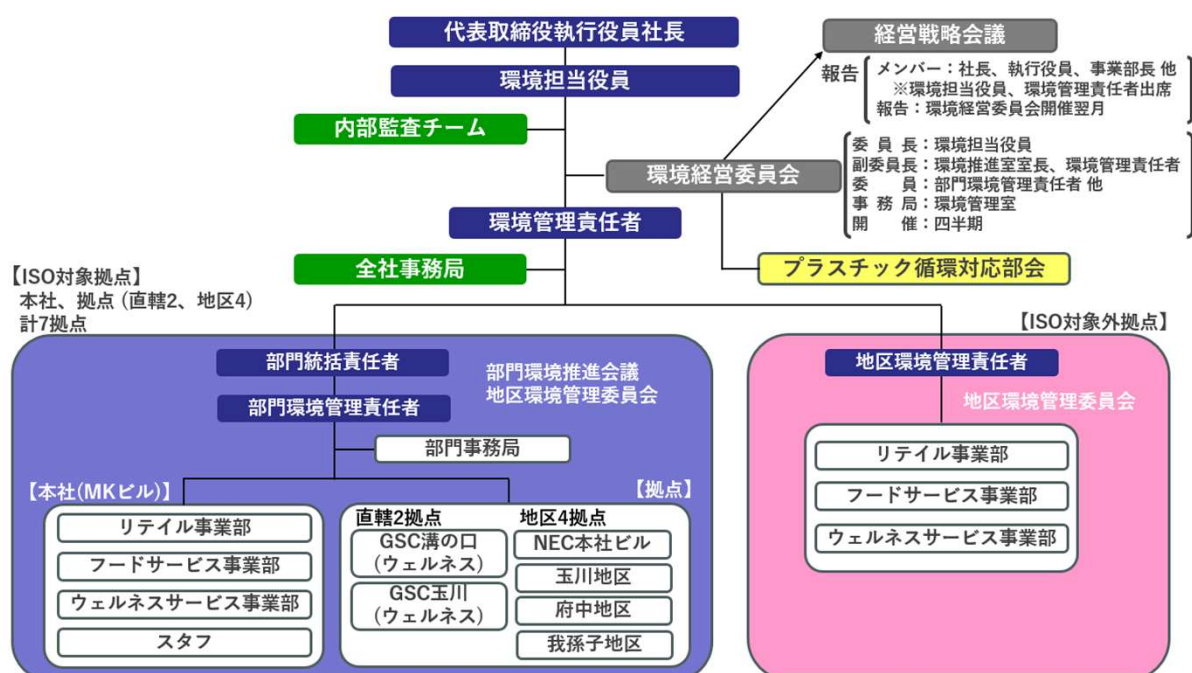
有効期限：2027年10月30日



ISO14001登録証

(3) 環境推進体制

当社は、社長と環境担当役員をトップマネジメントとし、ISO対象範囲と範囲外に体制を分けて構築・運用しています。3ヶ月ごとに開催する環境経営委員会において、重要事項を審議し、地区環境管理委員会において周知徹底を図っています。



環境推進体制図 (2026年4月現在)

(4) 順守義務・順守評価



① 順守義務 <2025年度重点活動方針>

当社は、「廃棄物処理法」他、約40の環境関連法が該当しますが、以下のとおり各項目別にガイドライン等の作成、専門教育等を実施し、法令違反および環境事故の未然防止に取り組んでおります。

◆廃棄物管理

<産業廃棄物処理委託会社の管理>

当社は、39社の産業廃棄物処理会社に産業廃棄物の処理を委託しています。各委託会社については、最新版の許可証（写し）を取り寄せて、その有効性の確認（許可証期限管理）を実施しています。

また、契約時、および3年毎に処理場等へ赴き、現地確認を実施しています。2025年度では、25社の現地確認を実施しました。※優良会社のHP確認等含む



現地確認実施状況（産業廃棄物処理業者）

◆化学物質管理

当社は、以下のとおり、化学物質の管理を徹底しています。

※当社で使用している化学物質は主に洗剤です。

- ・新規使用時の内容確認（アセスメントの実施）
- ・化学物質使用一覧、SDS（安全データシート）の掲示
- ・漏えい対策
- ・保管方法の対策（塩素と消毒用アルコールを離して保管）
- ・保護具の着用、小分け洗剤の表示
- ・定期棚卸

また、化学物質に関するルールについて、現場責任者のためにわかりやすくまとめた「化学物質運用ガイドライン」を作成し、職場責任者教育で周知しています。

◆プラスチック資源循環

当社は、特定プラスチック使用製品の提供事業者で、その削減に向け合理化策を展開しております。

2025年度使用量実績は0.20トンで、基準年度対比54%削減を達成しました。
また、2026年度使用量目標は、0.33トン(基準年度対比25%削減)と設定しました。

宿泊施設関係（NEC三田ハウス等）

- ・アメニティ備品（歯ブラシ、カミソリ、くし、ヘアキャップ）は、全てバイオマス20～40%配合品を使用。
- ・フロント置きし、必要な人に提供する。

売店関係

- ・カフェコーナーのストローは提供中止。（売店で有料販売）
マドラーは、紙製を使用。
- ※本社ビルFIELDのカフェのストローは竹製、マドラーも木製を使用。
- ・NEC事業場応接ゾーンのお客様サービスコーナーで提供のペットボトル飲料は缶飲料を使用。



アメニティ備品の提供（バイオマス配合品・フロント置き）＜NEC三田ハウス＞



マドラー：紙製を使用



ストロー：有料化



ペットから缶飲料へ
＜お客様サービスコーナー＞

また、当社は、プラスチック使用製品産業廃棄物の排出事業者でもあり、2025年度排出量は、17.4トンでした。（多量排出事業者：非該当）

◆フロン機器管理

当社は、以下のとおり、フロン機器の管理を徹底しています。

- ・フロン機器使用台帳の作成
- ・簡易点検、定期点検
- ・漏えい時の対応
- ・廃棄時のフロンの回収、破壊
- ・定期棚卸

また、フロン機器に関するルールを現場責任者のためにわかりやすくまとめた「フロン機器運用ガイドライン」を作成し、職場責任者教育で周知しています。

以下の機器について、特定漏れがないように注意すること。



ザラダ（平型冷蔵庫）
（休止中）



冷蔵庫ストック（故障）



給茶機



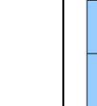
ドリンク
ディスペンサー



ウォーター
クーラー



冷蔵・冷蔵
ストック



オールバー
自販機

故障、休止中の機器
（倉庫等に保管されていないか）

ドリンク関係の機器
（食量ホールは確認したか）

売店関係の機器



ビールサーバー



スポットクーラー



製氷機



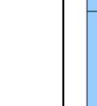
食食用冷蔵庫



プラスチック



保冷車



客室用冷蔵庫

その他特定漏れしやすい機器
（冷却機能のあるものは全て調査したか）

フロン機器運用ガイドライン

フロン機器使用台帳									
部門名									
機台番号（機台ID）									
機台名									
No.	設置場所	機台名	形式	メーカー	製造区分	運用区分	機器管理番号	フロン 充填量	圧力 測定値
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									

フロン機器使用台帳

フロン機器点検整備結果

部門名:

【フロン機器概要】

No.	設置場所
機台名	形式
製造区分	メーカー
フロン 充填量	機器管理番号
圧力 測定値	圧力 測定値
停止理由	修繕履歴、色

【簡易点検結果】 安全で容易に目視が出来ない機器

年度		実施日	点検者	点検結果	点検結果	点検結果	点検結果	点検結果	点検結果
				異常有 無	異常有 無	異常有 無	異常有 無	異常有 無	異常有 無
2019年度	1Q								
	2Q								
	3Q								
	4Q								
2020年度	1Q								
	2Q								
	3Q								
	4Q								
2021年度	1Q								
	2Q								
	3Q								
	4Q								

フロン機器点検整備結果

フロン漏えい時の対応手順書

制訂日: YYYY年MM月DD日	
責任者	
作成	
確認	
承認	
目的	
当社が所有あるいは業務で使用する第一種フロン特定製品からフロンが漏えいした場合（漏えいした疑いがある）に迅速かつ適切に対応できるようにする。	
適用範囲	
地区および地区以下の場所において当社が管理する第一種フロン特定製品に対して適用する。 ・食料ホール、厨房、洗浄室 ・売店、自販機（直販） ・福利厚生施設 ・事務所及び会議室、研修室 ・会議室、客室 ・機、社名 ・スミタマールビル施設	
実施手順	
・当社管理の第一種特定製品の設置した地点の管理責任者（社内窓口、客室、運転手等）の入手 ・客先設置の機台、エスカレーター等（所有者）情報（リース、レンタル、貸与）の入手	
漏えい発生	
以下の兆候を発見した場合は、フロン漏えいの疑いがあると判断し、以下の対応処置を実施する。 【フロン漏えいの疑いがある兆候】 ・設定した温度にならない（冷えない、設定温度まで器内より時間を要する） ・機内が汚染（配管の汚れや漏れ、故障等）が発生している ・外観に異常（目、振動、油のしみ、腐敗、発熱）が発見された	
1. 発見者は、該当する第一種特定製品の稼働を直ちに停止する。 2. 可能な範囲で不良品情報（症状、原因等）を収集する。 3. 必要に応じて、客先設置の機台は、客先が稼働する別の機台に移動させる。 4. 事前準備で入手したリストに基づき、該当製品の修理を依頼する。	
（注） ・フロン漏えい（の疑い）が解消（修理完了）するまで、該当製品を稼働させてはならない。	
エスカレーション	
1. 事件発生状況、問い合わせ情報を上司等に口頭で報告する。 2. 所定のエスカレーションルールにもとづき、報告する。（電話、メール、文書等） ※報告責任者の場合は、報告にもエスカレーションすること ※115の通報の場合は、ファシリティア（サービス）事業部へエスカレーションし、報告を要する ※経理等にフロンを充填した場合は、専用記録簿の写し（内装裏面に記載されたもの）を客先に提出する。（写真も一貫し）	
関係関係	
・緊急対応マニュアル ・環境安全等に関する規程 ・フロン排出抑制法に関する運用規程 ・フロン機器運用ガイドライン ・緊急事態対応ガイドライン	

フロン漏えい時の対応手順書

② 順守評価

当社は、全ての拠点に関係する環境関連の法律、条例、その他要求事項を調査し、その順守評価を毎年、実施しています。

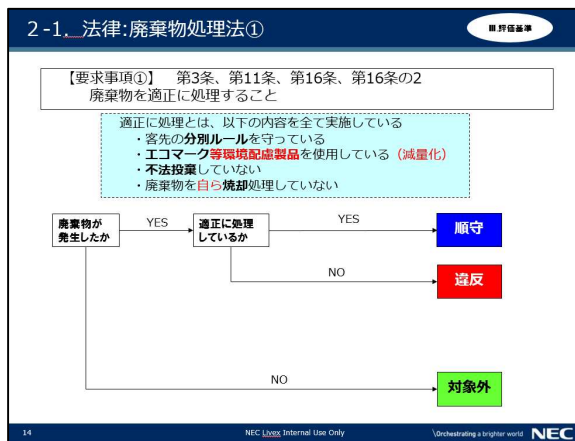
2025年度も 全ての法律、条例の改正情報をチェックのうえ、特定したリストを更新し、10月に順守評価を実施し全拠点の『法律違反なし』を確認しております。

<当社順守評価のポイント>

法規制等の内容は、法律用語が使われるため、専門的知識を持たない現場の人にはどうしても理解しづらい部分があります。

そこで当社では、適正な評価結果ができるよう、作業内容に照らしてYes・Noを選択することで、適正な評価につながる「順守評価ガイドライン」を作成し、現場の人からも、わかりやすいと好評を得ています。

順守評価をする人、その評価結果のチェックをする人は、力量確保のため毎年、「順守評価者教育」を実施し、理解度テストで全問正解することにより評価資格があたえられます。



順守評価ガイドライン

No.	問題
1	次の○に当てはまる言葉は何か。以下の①から③の番号から選択してください。 順守評価とは、“コンプライアンス徹底の観点で、当社の関連する環境関係の法律・条例・その他要求事項を特定し、その要求事項を〇〇しているか”を確認することである。 ①明示 ②順守 ③違反
2	次の○に当てはまる言葉は何か。以下の①から③の番号から選択してください。 今般、順守評価の評価基準が見直され、従来「発生なし」の区分(要求事項の記載内容は自部門に該当するが、前回の順守評価以後、発生していない状態)が「〇〇」の区分に変更された。 ①順守 ②違反 ③非該当
3	フロン機器の簡易点検の点検頻度で正しいものはどれか。以下の①から③の番号から選択してください。 ①3ヶ月に1回 ②6ヶ月に1回 ③1年に1回
4	以下の整備者のとった対応は正しいか。以下の①から③の番号から選択してください。 管理者から業務用空調機の冷えが悪く、整備者に整備の指示が入った。整備者は、フロンが漏れていると思い、漏洩箇所の確認をせず、充填回収業者に該当機器のフロン充填を依頼した。 ①正しい(特に問題はなし) ②間違っている ③どちらともいえない
5	次の○に当てはまる言葉は何か。以下の①から③の番号から選択してください。 フロン機器を別の拠点に移動した場合、簡易点検結果等の記録を〇〇〇に渡さなければならない。 ①環境推進室 ②客先 ③移動先

順守評価者教育理解度テスト

また、順守評価以外にも内部統制推進部による業務監査、地区環境管理委員会および事務局による環境パトロール等により現地、現物の状況を確認し、コンプライアンスが徹底されているか確認をしています。

(5) 緊急事態対応

当社は、発生する可能性のある環境事故・法律違反を想定して、以下の6項について緊急事態リスクとして特定しています。

- ・洗剤等の排水への流出
- ・フロンの漏えい
- ・廃棄物の不法投棄
- ・廃食油運搬および保管時の客先敷地内への漏えい
- ・車両からの燃料等オイルの漏えい
- ・次亜塩素酸ソーダタンクからの漏えい ※

※ NECグリーンスイミングクラブ（玉川・溝の口）のみ該当

この緊急事態リスクの発生に備え、個々の緊急事態対応手順書を作成し、各拠点には緊急事態対応備品（吸着シート等）を整備しています。また、毎年、上記リスクのいずれかの緊急事態対応訓練を実施しています。

2025年度は「車両からの燃料等オイルの漏えい」を想定して訓練を実施しました。「車両からの燃料等漏えい時の対応手順書」の内容に問題はないか検証し、手順書の見直しは、“なし”というテスト結果が得られました。

◆ 府中地区（車両からの燃料等オイルの漏えい）



◆ GSC溝の口（次亜塩素酸ソーダの漏えい訓練）



(6) 環境教育・意識啓発活動

当社は、各種環境教育の実施および環境意識啓発の発信等を行い、従業員の環境意識啓発および力量確保を図っています。

①環境教育の実施

毎年4月に教育プログラムを計画し、実施結果は報告書として記録しています。全体の教育体系は、以下の表のとおりですが、力量確保が求められる教育は、理解度テストを実施し、力量を確認しています。

また、2025年度の教育統一テーマは「私たちが進むべきLIVEXの環境活動」を取り上げました。

区分	教育・訓練名	対象者	実施時期
意識啓発	入社時教育	パート等	適宜
		社員(新卒)	4月
		社員(中途)	適宜
	一般従業員教育	上記以外ISO認証拠点：従業員 ISO認証拠点以外：管理監督職	11月
力量確保	作業に準じた各種教育	電子マニフェスト担当者、職場責任者等	適宜
	廃棄物管理者教育	産廃管理者	適宜
	緊急事態対応訓練	認証拠点	4Q
	順守評価者教育	順守評価者・承認者	9月
	内部監査員新任教育	内部監査員（新任）	適宜
	内部監査員フォローアップ教育	内部監査員（既存）	9月

環境教育体系

◆一般従業員教育（11月）

2025年度の一般従業員教育は、従業員を対象に実施しました。また、教育資料は、NECグループ共通資料と当社独自資料を使用しました。

(計 507人受講、実施率 100%)

はじめに

NECのサステナビリティ経営は、NEC Wayのもと、インテグリティを持って事業を遂行し、社会からの信頼を基盤に価値ある製品・サービスを提供することで、**長期的な利益と企業価値の最大化**を目指します。将来世代も含めたステークホルダー全体の持続可能性とステークホルダーとの対話を踏まえた事業遂行が求められます。

NEC Wayの実践

- NECのサステナビリティ経営は、NEC Wayを実践して**企業価値の最大化**を目指すこと

Orchestrating a brighter world

マルチステークホルダーの期待にバランスよく応える企業運営

- 社会に価値を創出してその対価を得るには、社会の構成要素である多様なステークホルダーの期待にバランスよく応え、長期的信頼関係を維持・強化する必要がある

ステークホルダー	主な企業に対する期待や理念
お客様(主)・取引先	人権・環境リスクのない企業とつきあいたい。社会課題を解決する企業と連携したい。
株主・投資家	投資リスクがなく、リターンを最大化してくれる企業に投資したい。
取引先、卸売、移転・販売関係	気候変動、移転・販売問題に適切に対応してほしい。
従業員	誰もが人権を尊重できる、心理的安全性が確保された職場で働きたい。
「正社員、非正規社員」	自身の成長を促される仕事にしたい。
国連・国際機関・グローバル社会	誰一人取り残さない社会の実現、SDGsにコミットしてほしい。
NPO・NGO、市民社会	環境破壊、脆弱な市民からの搾取等のネガティブインパクトを軽減してほしい。
学生	社会課題解決に貢献する企業に就職したい。
「将来の従業員・顧客・取引先」	パラスメント等のあるグリーン企業には投資したくない。

全ての行動に優先するのが**コンプライアンス**

- ・ルール順守
- ・気がついたことは、責任者に報告

LIVEXらしい**環境活動**を

- ・お客様目線、創意工夫
- ・サービス向上→環境活動の推進
- ・「チーム」で活動



適量で提供(良い例)



少量の洗い物は、まとめて洗浄する(良い例)



食材等の先入れ先出し(良い例)

© NEC Corporation 2024

NEC Group Information Page 2024

Orchestrating a brighter world

NEC

2025一般従業員教育資料
＜NECグループ共通＞

2025一般従業員教育資料
＜当社独自＞

②意識啓発活動の実施

当社は、環境関連諸行事等を実施し、従業員の環境意識の向上を図っています。

◆省エネ月間

毎年、2月を省エネ月間として設定し、諸行事を実施しています。2025年度は、ISO全拠点において省エネパトロールを実施し、エネルギー削減につながる指摘や提案事項を抽出しました。



(7) 環境コミュニケーション

当社は、社内外のステークホルダーに対し、各種ツールを活用して積極的に情報発信しています。

①内部（社内）コミュニケーションの実施

2013年度より、従業員への情報提供ツールとして毎月「環境・衛生・安全ニュース」を発行しています。2025年度は「当社のエコ活動を紹介します」をテーマとしました。

産業廃棄物保管場所	
廃棄物の種類	
数量	
管理者 氏名	
連絡先	
保管の高さ	

※産業廃棄物が運搬される保管場所には看板を出さなければならないと法律で定められています。

環境・衛生・安全ニュース

②外部（社外）コミュニケーションの実施

2003年度より、毎年、「環境アニュアルレポート」を発行し、主なステークホルダーへの配布、および当社ホームページ上に掲載し、一般公開しています。

また、外部からの苦情等については、「環境情報受付一覧表」として対応結果を記録しており、2025年度は、苦情等の報告はありませんでした。

(8) 内部監査および外部審査・監査



当社は、年間計画にもとづき、内部監査、外部審査を実施しています。また、審査・監査において指摘事項が発生した場合、是正計画をたて、是正結果の有効性確認を実施しております。2025年度は、以下の審査および監査が行われました。

①ISO14001審査の実施

2025年8月20日～21日の2日間、財団法人日本品質保証機構（JQA）の審査員による直接審査を受審しました。食用油のリサイクル化への取り組みに関してグッドポイントの評価をいただきました。

※指摘事項は、ありませんでした。



ISO14001審査（2025年8月）

②内部監査・NEC環境経営監査の実施

2025年度は、11月に3部門の内部監査（当社監査員による内部監査）を実施し、2025年12月に残りの部門（環境部門と4部門）のNEC環境経営監査（NECグループ監査員による監査）を実施しました。監査時にあがった問題点については、全て是正処置、有効性を完了しました。



NEC環境経営監査（2025年12月）

3. 環境目標および実績

当社は、環境方針を制定し、国際規格である ISO14001に準じた環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善を図るため、年間計画に沿った環境活動を推進しています。



(1) 2025年度環境目標（達成状況）

2025年度は、エネルギー使用量を除く項目で環境目標を達成することができました。

活動項目	2025年度目標	2025年度実績	評価
【地球温暖化防止】			
エネルギー使用量（絶対値）の削減	563.4kl	573.1kl	△
【資源循環】			
水道使用量の削減	51,619m ³	46,469m ³	○
1食あたりの生ゴミ発生量の削減	45.4g/食	42.9g/食	○
【環境に配慮した事業の推進】			
LIVEXNETの会員数アップ （リテイル事業部）	601名アップ	676名アップ	○
環境催事の実施 （フードサービス事業部）	4件	4件	○
環境配慮型設備の提案・更新 （ウェルネスサービス事業部）	4件	4件	○
環境標語による環境活動の意識づけ （スタッフ）	2件	2件	○

【評価基準】 ○：達成（100%以上）、△：未達成（90%以上100%未満）、×：未達成（90%未満）

(2) 2026年度 環境目標（計画）



2026年度環境目標は、「NECエコアクションプラン2030」、「環境方針」等に準じ、目標を策定しており、基本的には2025年度の活動の継続となります。

ただし、部門目標については、リテイル事業部が「老朽化設備(10年以上経過したフロン機器)の定期的な更新」、スタッフ部門が「環境教育の実施」と新しい目標にチャレンジしています。

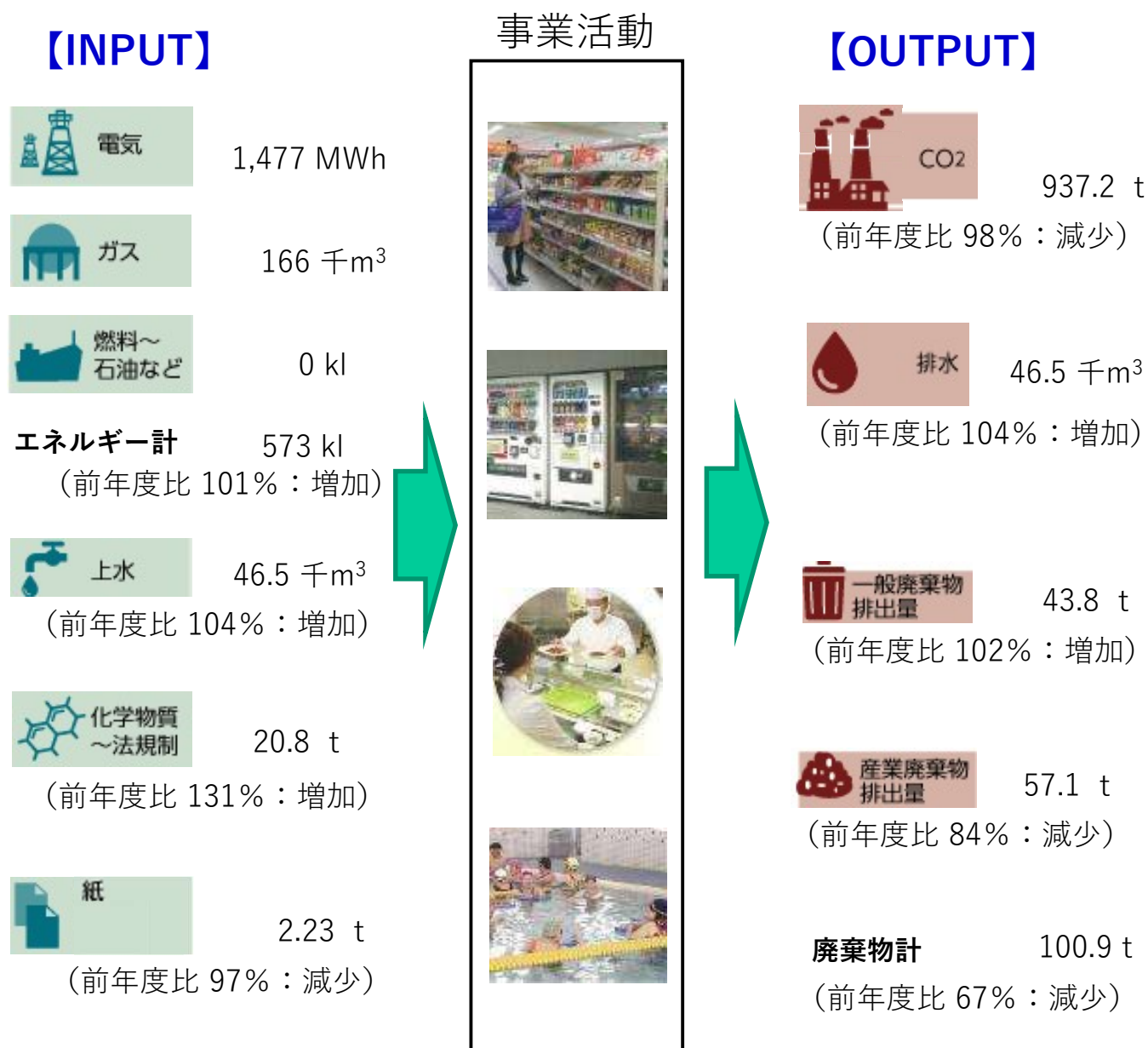
活動項目	2026年度目標	備考
【地球温暖化防止】		
エネルギー使用量（絶対値）の削減	823.5kl	—
【資源循環】		
水道使用量の削減	66,743m ³	—
1食あたりの生ゴミ発生量の削減	42.9g/食	前年度実績以下
【環境に配慮した事業の推進】		
老朽化設備(10年以上経過したフロン機器)の定期的な更新 (リテイル事業部)	8台	CO ₂ 排出量の削減
環境催事の実施 (フードサービス事業部)	4件	SDGs推進
環境配慮型設備への提案・更新 (ウェルネスサービス事業部)	4件	カーボンニュートラル 施策
環境教育の実施 (スタッフ)	6月、2月	環境啓発

4. 環境負荷状況（マテリアルバランス）



当社は、事業に係わるエネルギーや資源の投入量（INPUT）、および事業活動の結果、生じた環境負荷の量（OUTPUT）を把握し、環境負荷の削減に向けて取り組んでいます。

2025年度の環境負荷状況は以下のとおりです。※ISO14001認証拠点のみ

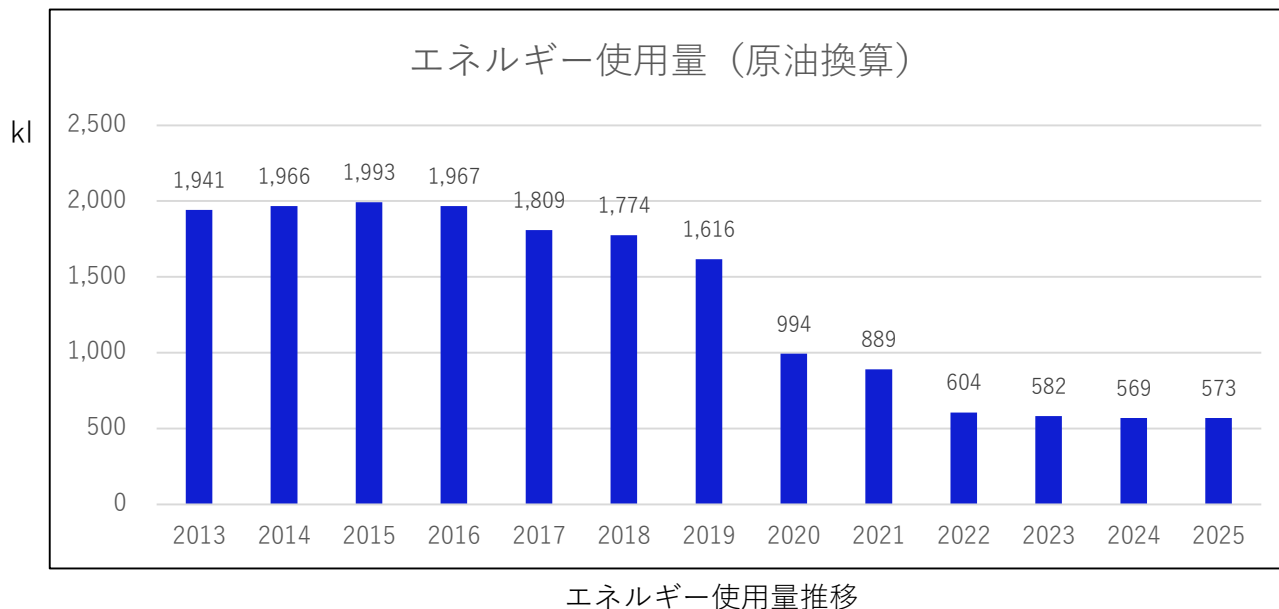


5. 主な環境負荷低減活動

(1) 省エネルギーおよび省資源の推進 <環境方針>



当社は、環境負荷低減のため、諸々の活動を計画的に実施しています。
※2022年度からエネルギー使用量は、共用部を除いた数値に変更しています。



① エネルギー削減への取り組み

ウェルネスサービス事業部では、NECグリーンスイングクラブ（玉川・溝の口）において、電気使用量の「見える化」としてスマートクロック（日本テクノ社製）を導入して省エネ活動を推進しています。

これは、電気使用量によってスマートクロック（左下写真）の色が変化し、使用量が目標値を超過するとアラームも鳴る仕組みになっており、会員と従業員と無駄な電気使用の削減に一緒に取り組んでいます。



スマートクロック



管理機器（事務所設置）



館内ポスター

② 水使用量削減への取り組み

NECグリーンスイミングクラブ（玉川・溝の口）では、水泳後に「10カウントシャワー」を実施し、プールから上がった後に体に付着した塩素や汚れを効率的に洗い流すための取り組みを行い、健康と環境の両面に配慮しています。

このシャワー習慣は、肌荒れ防止や衛生管理に加え、必要最小限の水の使用による節水効果も期待できる、環境にやさしい行動です。

具体的には、以下の手順で行います。

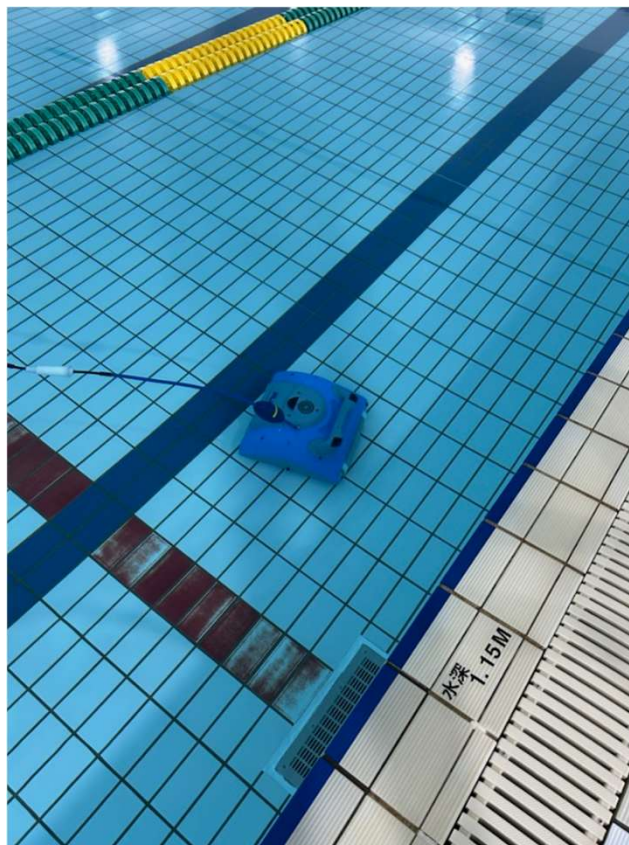
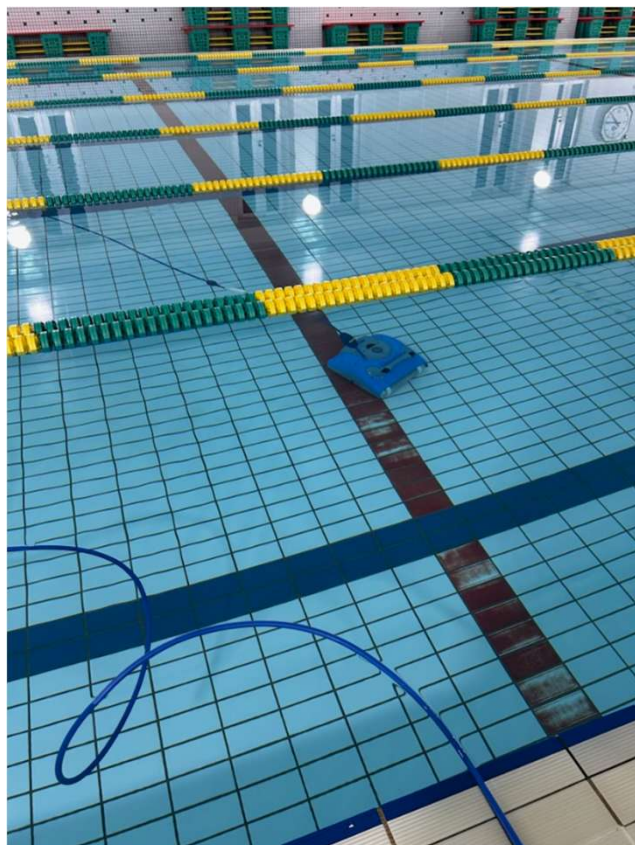
- ・水温の確認
まずは水温を確認し、無駄な水の流出を防ぎながら適温で使います。
- ・10カウント
全身をまんべんなく洗い流すために、心の中で10まで数えながら効率よくシャワーを使用します。
- ・水分補給
体調管理のために、シャワー後はしっかり水分を補給します。

この「10カウントシャワー」は、節水による環境負荷の軽減と個人の健康管理を両立させる、小さなECOアクションです。肌が敏感な方は、使用水量を調整し、肌への負担を和らげる工夫を取り入れると、さらに効果的です。



③ 水使用量削減への取り組み

NECグリーンスイミングクラブ（玉川・溝の口）では、プール清掃ロボットを導入しました。夜間(営業時間外)にプール清掃ロボットを稼働させて、プール内のゴミなどの沈殿物の除去をすることにより、プールろ過機へのゴミや汚れの流入を削減しました。これにより、ろ過機洗浄の回数を減らして水道使用量を削減することができました。



(2) 食品ロス等の廃棄物削減の推進 <環境方針>

当社は、食品廃棄物の排出量を削減するため、諸々の削減活動をしています。

① フードロス削減

フードサービス事業部では、四半期ごとに季節に合わせた旬な野菜を使用した環境にやさしいメニューを提供しています。

環境配慮ポイント（例えば【初夏の房総美味ちーばセット】）

- ・キャベツの芯を細かく刻んで調理に活用し、調理廃棄ロスを削減
- ・キャベツの外葉もみそ汁の具材として使用し、食材を有効活用
- ・旬の新鮮な食材を使用することで、利用者に美味しく食べ切っていただき、残菜の低減を推進
- ・小鉢には干し野菜を活用し、食材を無駄なく使用することで調理ロスを削減
- ・首都圏産の農産物を積極的に使用し、輸送に伴うエネルギー消費やCO₂排出の削減に貢献

在館人数 総食数 販売数 占有率
2,960人 1,589食 580個 36.5%

お客様の声

- ・キャベツがシャキシャキして美味しかった
- ・このランチが食べたくて、今日は出勤しました など



② 食品ロス削減推進法への取り組み

10月の食品ロス削減月間において、食べ残しを減らす、買いすぎない、賞味期限・消費期限を理解する、など、一人ひとりができることから食品ロス削減に向けた取組を推進しました。

なお、2025年度の食品リサイクル法の定期報告において、当社の再生利用等実施率は、72.7%で目標を達成しました。

(出典:消費者庁ウェブサイト)

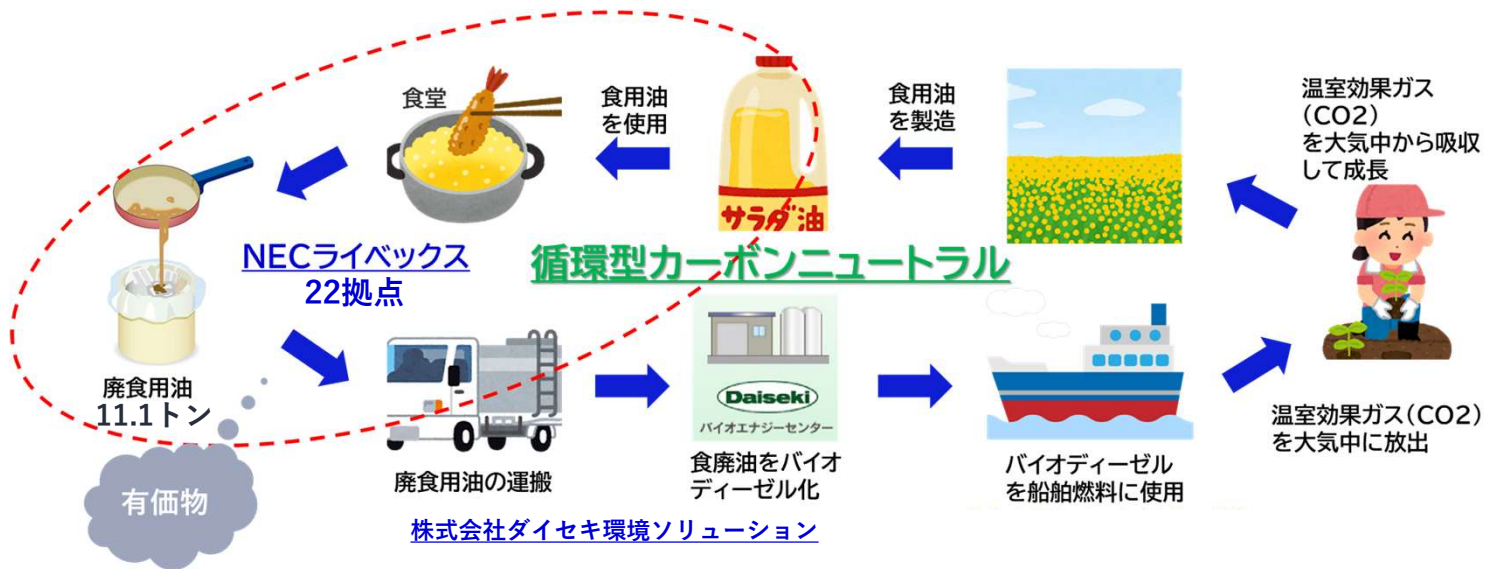


(3) リサイクルの推進 <環境方針>



① 廃食油のリサイクル化への取り組み（廃食油で作る燃料はカーボンニュートラル）

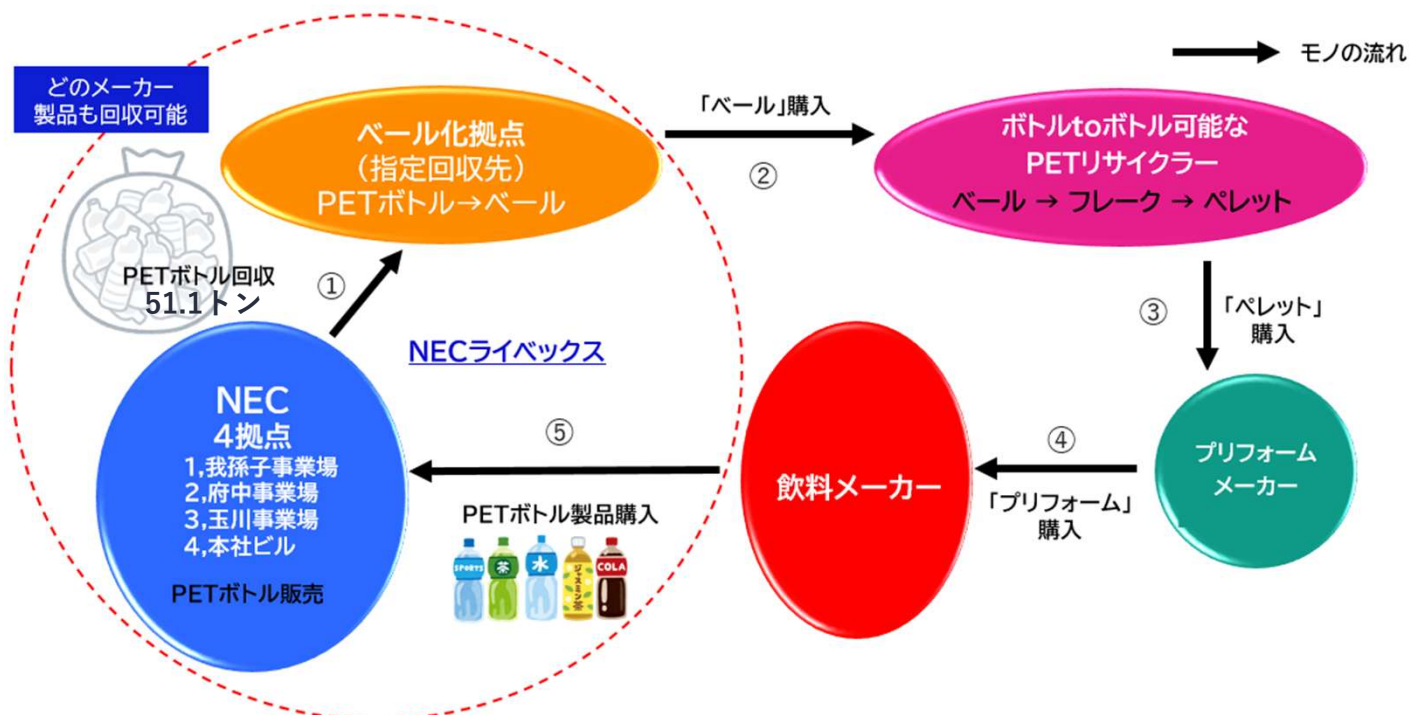
化石燃料以外の原料として、廃食油をディーゼル燃料に転換して循環利用します。バイオディーゼル燃料は、植物から生成した、温室効果ガス(CO2)の排出を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にする燃料であるため、地球温暖化防止にも貢献することから、持続可能な循環型社会構築に向けた具体的に効果のある事業として取り組んでいます（2025年度実績：廃食油量 11.1トン）。



② PETボトル・缶の新リサイクルシステムへの取り組み

PETボトル・缶の廃棄物を有価物として扱うように、NECサプライチェーン改革統括部と飲料メーカーと当社で、新リサイクルシステム（ボトルtoボトル）をNEC各拠点に導入しました（2025年度実績：PETボトル回収量 51.1トン）。

NECグループとして、廃棄物の低減ならびに、これらを有価物として扱うことで、費用削減やSDGsの活動に取り組んでいます。



(4) 環境に配慮した商品およびサービスの提供 <環境方針>



当社は、お客様の環境負荷を削減するため、様々な活動を実施しています。

① 環境に配慮した防災備蓄品の提案

ウェルネスサービス事業部では、NECおよびNECグループ会社に納入している防災備蓄品の更新時に、環境配慮型製品（省資源、省スペース、長寿命）との入替えを提案しています。

これにより、お客様の備蓄品の保管スペースの削減や使用後の包装・空缶等の廃棄物を抑制できます。

2025年度もビルの移転、リニューアルに伴う備蓄品移設プランの作成、移設・再配置を実施、さらに使用期限切れのヘルメット及び簡易トイレの更新を多数実施させて頂きました。



防災備蓄品納品状況



防災備蓄品(簡易トイレ、折り畳みヘルメット)

② 食品ロス削減の取り組み

リテイル事業部では、店舗間での商品移動による廃棄ロスの削減を行っています。売れ行きの悪い商品を買っている店舗へ移動し、販売することで、販売チャンスロスの低減と廃棄ロスの削減に取り組んでおります。

特にお弁当など、消費期限の短い商品について、同一事業場内または近隣に複数店舗がある本社Plaza／セレスティン芝三井ビル店、玉川Plaza／ソリューションセンター店／イノベーションパーク店、府中10号館店／府中8号館店（2階）で、昼営業時間帯を中心に店舗間の在庫状況を共有し合い、タイムリーな商品移動を行うことで、食品ロスの削減に努めています。

6. 社会貢献活動

当社は、NECや地域と一体となり、様々な社会貢献活動を継続して実施しています。

① 水資源を通じた地域とのつながりと学び

ウェルネスサービス事業部では、地域とのつながりを大切にし、NECグリーンスイミングクラブを拠点に、環境（ECO）と地域貢献を意識した取り組みを行っています。

・水泳授業

夏季に実施される小学校の水泳授業を、屋内施設として受託しています。天候に左右されずに授業が行えるだけでなく、水の効率的な使用や安全管理を徹底することで、持続可能な学びの場を提供し、教職員の負担軽減と地域の教育環境の向上に貢献しています。



小学校水泳授業

環境アニュアルレポート2026

株式会社NECライベックス

〒108-8305 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル6F

TEL:03-3455-0333(代表)

発行日：2026年8月31日

発行責任者：伊藤 恒雄

お問い合わせ先：環境推進室

e-mail：kaneian@livex.jp.nec.com

☆本レポートはインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.neclivex.co.jp/environment/index.html#anc-03>



NEC

\Orchestrating a brighter world